



パチンコはテニスと共通の!

2014年9月9日早朝、私は全米オープンテニス男子シングルス決勝を見るため、興奮気味でテレビの前にいました。錦織圭選手が日本人初の決勝進出ということもあり、同じように応援していた方も沢山いらしたことでしょう。結局、錦織選手は準優勝となったものの、今後も活躍する度に大きな注目が集まるのは間違いありません。

私は中学生の頃、軟式テニス部に所属していたこともあって、テニスは見るのもやるのも大好きです。部活では、まず「ボールを打つ位置を常に一定にして、体を素早く最適な場所に回り込ませる」、そして「正確に打ち返す」という2つを教わりました。確かに自分でやってみると、変な位置で無理矢理打ち返した場合、ほとんどがアウトやホームラン（コートの囲いのネットまでオーバーしてしまうことを、当時こう呼んでいました）になってしまいます。しかし正確に打ち返すことばかり考えていると、球に勢いがなくなってしまう問題点も出て来る。実際、当時先輩たちが出場した試合を見ていると、ほとんどの選手が正確に返すことを重視していて、山なりの遅いボールが飛び交っているのが当たり前、といった状況でした。

それを見ていた私自身は、正確さよりも勢いやスピードの方が大事ではないか?と疑問を持つようになり、乱暴だと怒られながらもできるだけ速い球を打ち返すように努めていました。変な話ですが相手からの打球も速いほど、インパクトの瞬間軽いしびれとともに、ボールを打っているのだ!という喜びが湧き上がって来るのです。そのうち先輩の中

には「神保さんはいい線いくかも」と応援してくれる人が現れ始め、私も試合に出る日を待ちわびていました。…が、結局その前に顧問の先生が、一方的にテニス部の解散を宣言する事件が起こったりして（その後、再開しましたが）嫌気が差したため、退部してしまったのです。

高校生になってからは、自分で立ち上げたソフトボール部の活動に夢中になっていたのですが、大学時代は体育の授業で硬式テニスを選択。軟式テニスとはラケットの振り方やボールの重さなどが全く異なることに戸惑いつつも、中学時代とはレベルが違う選手たちが打ってくれる速い球を打ち返すことに大きな喜びを感じ、とかく授業をサボりがちだった私にしては、ほぼ皆勤賞というちゃっかりした“成績”を残しました。

さて、大学・社会人以降は同じ「球技」でも、パチンコにどんどん夢中になっていった私。打っているうちに、羽根物で球が拾われてV入賞したりデジパチで777が揃ったりした瞬間、テニスやソフトボールで体験した「ボールを思い切り打ち返す、インパクトがもたらす快感」と、同じようなものが感じられるのに気付きました。これはおそらく、よく耳にする「ドーパミン」などといった刺激物質が脳内で分泌されているからに違いなく、スポーツとパチンコにはこういう共通点があるからハマってしまうのかもしれないな、とも思ったのです。

例えば、運動習慣がある人はボケにくいといった定説はもちろん、老人ホームにパチンコ台を寄贈して遊んでもらい、いい気分転換や刺激にもらう…といった動きも、脳内物質がもたらす快感による効果が大きな割合を占めているからだ、と考えれば合点がいきます。そんなわけで、今年の秋はパチンコ以外にスポーツにも励んで刺激的に過ごそうかな、と考えているのです。



◀2001年には、高齢者向けのこんな業界イベントも。今後もこうした刺激的な取り組みが期待されます

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（パジリコ、07年）